

第6回	糸魚川市駅北復興まちづくり市民会議 記録簿		
日 時	平成 31 年 1 月 25 日 13:30-16:00	場 所	糸魚川商工会議所会議室
出席者	<p>委員：白沢賢二委員、青木資甫子委員、小林大祐委員、本間寛道委員、小出薫委員、木島嵩善委員、土田満委員、松木美沙子委員、猪又直登委員、室川亜紀委員、齊藤里沙委員、小竹貴志委員、竹田しをり委員</p> <p>アドバイザー：西村浩氏、江口知章氏</p> <p>ファシリテーター：吉崎利生氏</p> <p>(欠席) 齋藤伸一委員、小坂功委員、野村祐太委員、丸山剛委員、伊藤薫アドバイザー、</p>		
(協議内容)			
<p>1. 開会 (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 定刻のため、第6回糸魚川市復興まちづくり市民会議を始めさせていただく。本日の次第は、お手元の配布資料に記載させていただいたとおりである。 <p>2. 委員長挨拶 (委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> あけましておめでとうございます。インフルエンザや風邪が猛威を振るっている。また、新年早々、お忙しい中ご出席いただきご苦労様です。7月の末にこの会議が発足をし、にぎわいについて定義の共有をすることからスタートし、今回で6回目となる。本日は、今までの流れを整理し、焦点を絞りながら、次回最終回の市長、会頭へのプレゼンにつながるよう、実のある会議になるようお願いしたい。 <p>3. 議事 (1) 市民会議における検討状況及び今後のまとめ方について (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年の7月に、中心市街地としてのにぎわい及び活力を創出するため、多様な市民が一体となってまちのイメージを具体化していくことを目的に、委員17名からなる市民会議が設置された。 市民会議の所掌事項は、①にぎわいのあるまちのイメージ ②にぎわいのあるまちづくりに向けた、施設等の機能整理と活動内容 ③市民、事業者、関係団体、行政等の役割、連携、協働の取組の3つ。市民会議では、これら3つの事項について、順次検討している。 最終的な目的としては、にぎわいのあるまちづくりの提案やご意見を、市長・商工会議所会頭へ報告することとしており、現在、そのプレゼン資料を作成いただいている。 皆様からいただいたご提案やご意見を受け、市及び会議所で駅北におけるにぎわいのあるまちづくりの方向性を決めていきたい。 今までの市民会議の検討状況について、説明する。所掌事項の1点目、「にぎわいのあるイメージ」については、それぞれが持つにぎわいのイメージを共有するため、「にぎわいの定義」を検討し、5点にまとめた。 			

- ・ 次に、このにぎわいの定義に基づき、2点目の「にぎわいづくりに向けた活動内容」と、3点目の「市民、事業者、団体、行政等の役割、連携、協働の取組」について検討し、具体的にどのような手段や手法でにぎわいをつくり出すかを3つのテーマに集約した。
- ・ 一方、市と会議所では、市民会議の検討状況を踏まえ、行政として、会議所として、まちづくりに関する様々な課題を解決しながら、市民会議からの提案が実現できる場づくりを中心に、まちのにぎわいづくりについて検討してきた。それが①「プレーヤーが集まり、生まれる」リノベーションまちづくり ②「まちと関わるきっかけの場」としてのにぎわい広場 ③「まちを訪れるきっかけの場」としてのにぎわい拠点 ④「まちでビジネスが広がる」産業プラットフォームの4つ。
- ・ 市民会議で提案されるまちづくりを実現できる場をつくるのが、市及び会議所の役割ではないかと考えたところである。
- ・ 次に、所掌事項の2点目の「にぎわいづくりに向けた施設等の機能整理」については、今回、この後に皆様から意見交換をいただく。
- ・ 続いて、次回予定している市長、会頭へのプレゼン方法について説明する。
- ・ まず、1点目の「にぎわいのあるイメージ」については、委員長から「にぎわいの定義」の検討について報告していただく。
- ・ 次に、2点目、3点目の「にぎわいづくりに向けた施設等の機能整理、活動内容」、「市民、事業者、団体、行政等の役割、連携、協働の取組」について、グループごとにプレゼンを行う。現在、作成している「にぎわいづくりの提案」、本日作成予定の「にぎわい創出のための提案マップ」、この後皆様から出る「グループでの意見」の3つを用いて発表をお願いしたいと思っている。
- ・ 1グループ10分程度プレゼンをいただいた後、市長、会頭と意見懇談を行う。
- ・ 最後に、「わたしの宣言」を、委員の皆様から発表をいただく予定。
- ・ 以上、市民会議における検討状況及び今後のまとめ方の説明。

(委員長)

- ・ 次回のプレゼンの進め方は、今の説明通りでよろしいか。
- ・ 特に意見がないようなので、この通りに進める。

(2) にぎわいづくりに向けた施設等の機能整理について

①グループ意見交換

(事務局)

- ・ 資料No.2をご覧ください。
- ・ 前回、事務局から市と商工会議所が考えるまちのにぎわいづくりの展開について説明した。本日は、それぞれの項目ごとに意見をいただきたい。これにないものについては、その他として意見をいただきたい。

(グループ意見交換)

②各グループ意見発表

【グループ「キッズドリーム」の発表】

(委員)

- ・ リノベーションでは、良い取り組みが行われているが、本当に実現できるかが課題。プレーヤー

がどのくらいいるのか、成功事例を聞ければ、もっと進めて行きやすいなどの意見が出た。

- ・ にぎわい創出広場については、何ができるかよくわからないので検討の余地が無い。ここへ来るための駐車場の問題、使用料の問題、ここが出来て人の流れができるのか等、いろんな課題がある。子供たちが何か体験できるような、気楽に行けるようなところになれば良い。一番大きかったのは公民館との違いであった。
- ・ にぎわいの拠点、子育てをしている側からはあった方が良いが、莫大なお金をかけて本当にここに人がくるのかが問題。
- ・ 産業プラットフォームについては、会議所がまちにあると、人の流れができる。職業訓練や職業体験できるものがあれば良い流れができると思う。

【グループ「暮らしのシェア」の発表】

(委員)

- ・ リノベーションまちづくりについて、まちの常連が新しい人を連れて来れるかどうかのポイント。核になるのはプレーヤーをどう育てるか。プレーヤーがどれくらいいるのかが不透明なのが問題。若い人たちは発想や夢を持っているがお金と創り上げるプロセスと時間を持っていない。行政や企業は支援策やお金をもっている。その間に入る家守会社が必要になる。これがプレーヤーを育てる鍵になる。長期的なことを考えてプレーヤーを育てるスクール的なものは、1～2年ではなく、5～10年の長期に渡って育てることが必要。
- ・ にぎわい広場については、この広場の役割は心臓のポンプのようなもので、そこを起爆剤としてまちにどう流れていくかを生み出していくこと。絶えず情報発信をしながら、人が集まってくる仕掛けが必要。
- ・ にぎわい拠点については、子育て包括支援センターが市民会議で出た意見かのように思われているのであれば誤解。地域経営として投資効果があるかについて、十分な議論が必要。地域の身の丈にあったものを考えなければいけないが、糸魚川ならではの長を出していくという意味では、もっと検討が必要。
- ・ プラットフォームでは、市と商工会議所が、産業支援、企業支援を一体でワンストップでやるべき。同じフロアで、絶えず情報交換をしている環境がまちの中心にあってほしい。

【グループ「チーム駅 KITA (北・来)」の発表】

(委員)

- ・ リノベーションまちづくりについて、方向性としては良いが、空家がどのくらいあるのかとか、どのように展開していくかが見えないので、もう少し検討が必要。
- ・ にぎわい広場については、足を運んでもらう仕掛けづくりや今後利用してもらうあたりに不安がある。建物もできるので、広場という呼び方でない方が良いのではという意見があった。
- ・ にぎわい拠点については、子育てというのは唐突に出てきた感じがある。今後、人口が減っていく中で、子育て支援に特化したものをつくってやっていけるかの検討がなされていない。
- ・ プラットフォームについては、根本的にどんなプログラムに向かっているのか見えていないので、もう少し知る必要がある。もし、会議所と金融がまち中にいなくなった場合、プラットフォームに書いてあることが成立するのか、そのあたりの検討が必要。
- ・ その他、これだけまちに人を呼ぼうとすると駐車場が足りないのではないか。まちのグランドイメージをどんな組織で決めていくのか。このような会議になると、いつも同じメンバーになる。市内には色んな地域に様々な考えを持った人もいるので、いろんな人を巻き込んでスタッフづく

りをする必要がある。

(事務局)

- ・ 今日いただいた意見は、次回のプレゼンの際にも発表していただくし、市としても今後のまちづくりの方向性を決めて行く中で参考にさせていただく。

(休憩 5分)

(3) にぎわいづくりの提案について

①本日のワークについて説明

(ファシリテーター)

- ・ プレゼン資料の作成をお願いする。
- ・ 基本項目が検討されているか確認。
- ・ マップにその提案を落とし込む。

②提案の検討、まとめ、プレゼン資料作成

(グループごとにプレゼン資料作成作業)

③アドバイザーからのコメント

(江口アドバイザー)

- ・ 出したアイデアや提案を誰がやるのかがポイント。そのあたりを考えながら検討していった方が良い。
- ・ アイデア等を出して本当に出来るかといったところになると、きっといくつか課題が出てくる。課題は決して悪いことではなく、乗り越えるための良いチャンス。そのあたりも考えれば、より実現性が出てくる。

(西村アドバイザー)

- ・ 議論していくと頭でっかちになってきてパワが作れと言われると説明的になるが、この段階で大事なことは、楽しそうだねとなること。仕組みとかきかせておき、話してることがすごく楽しくて、これみんなやりそうだよねとなるとみんなやる。そこを大事にした方が良い。心からこれ楽しそうというところまで行くことが大事。そうすれば人もお金もついてくる。
- ・ その上で誰がやるかは、自分達が忙しければ人を雇えば良い。人を雇うことは雇用が生まれることで、地方にとっては重要。

4. その他

(1) 次回の会議について

第7回は2月18日(月)14時から 商工会議所2階会議室

委員は準備のため13時に集合

詳細については後日、改めて案内いたします。

5. 閉会

(事務局)

- ・ 以上で本日の市民会議は終了させていただきます。長時間に渡り、ありがとうございました。なお、引き続き検討されるチームについては、そのままお使いください。

以上